

第1章 現況と課題

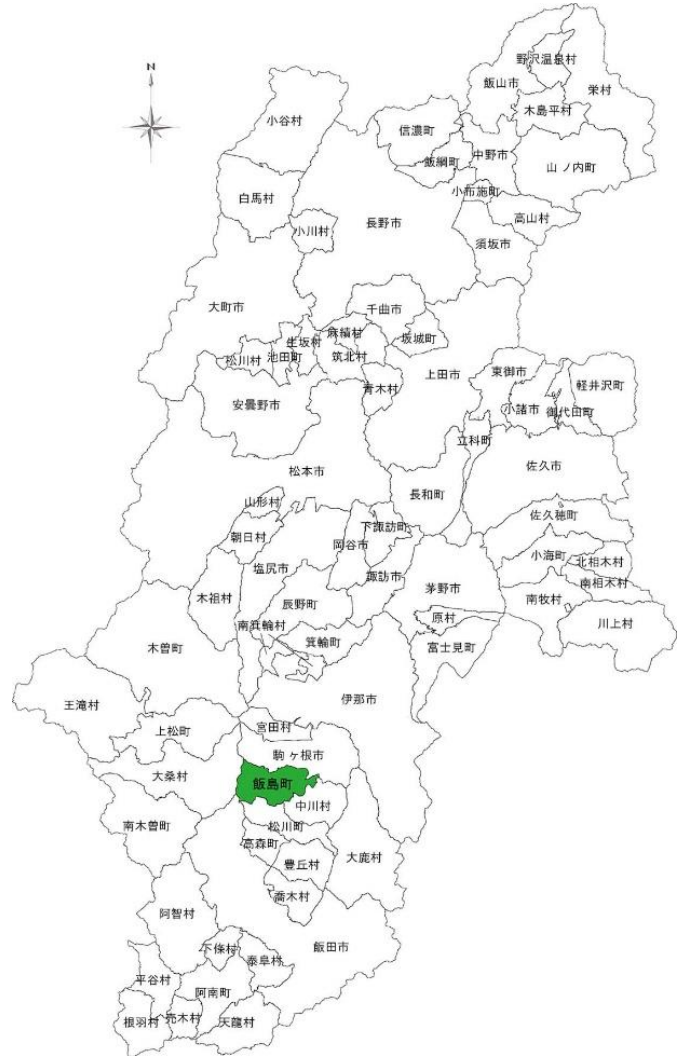
1 飯島町の現況と課題

(1) 位置・地勢

本町は長野県上伊那郡のほぼ中央に位置し、その大部分は天竜川右岸にあります。中央アルプス南駒ヶ岳を背に、東方に傾斜した地帯であり、天竜川、与田切川、中田切川などによって段丘が発達した地形となっています。西側の山岳地域には、南駒ヶ岳、空木岳、越百山などの3,000m級の山々が高くそびえ、連なっています。

中央アルプスと天竜川に挟まれた平坦な地域は、中田切川や与田切川などによって形成された扇状地性堆積物に覆われ、天竜川に向かって緩やかに傾斜した幅広い平坦地をつくり出しています。また、天竜川の東側は河川の浸食が進んだ山地となっており、山麓の斜面にはひな壇状に開けた日曾利地区の集落があります。

町の西側は中央アルプスを経て木曽郡大桑村に接し、東側は中川村、南側は飯田市及び下伊那郡松川町、北側は中田切川を境に駒ヶ根市に隣接しています。



図表 3. 飯島町の位置



※ 断面図は、相対的なイメージがとりにやすいよう高さを2倍に強調しています。

図表 4. 地形断面図

(2) 沿革

本町は江戸時代に幕府の陣屋が置かれていた歴史の街です。

飯島陣屋は江戸時代初め、延宝5（1677）年に設置されたといわれており、伊那郡を中心とする幕府直轄領（天領）を支配する拠点として置かれました。それ以来、幕末にいたるまで続き、明治維新以後は伊那県庁として使われていました。

伊那県は、明治4（1871）年11月に廃止されましたが、本町は江戸時代から明治初期に至る200年近い間、信濃の国や伊那県の政治上重要な役割を果たしていました。

図表 5. 飯島町の沿革

原始・古代	各地に集落ができる。
鎌倉時代	飯島氏の支配のもとに飯島郷の開発が進む。
江戸時代	幕府の直轄地を支配した飯島陣屋が置かれる。 この地方の政治・経済・文化の中心地として栄える。
明治8年1月23日	飯島村、石曾根村、田切村、本郷村の4か村が合併して飯島村となる。 一方、七久保耕地は同日、小平・前沢・田島・上片桐・片桐の5耕地とともに1村扱いを廃止し、合併して片桐村となる。
明治14年8月17日	片桐村は、上片桐村・片桐村・七久保村の3か村に分離し七久保村が発足する。
明治15年4月5日	飯島村から田切及び本郷が分離し、飯島村・田切村・本郷村の3か村となる。
明治22年4月1日	市町村制の施行に際し、飯島村・田切村・本郷村の3か村が合併して「飯島村」となる。「七久保村」はそのまま新村として発足する。
昭和24年4月1日	飯島村は南向村の一部日曾利を境界変更により編入する。
昭和28年2月1日	七久保村は字三林、字袴ヶ腰、字烏帽子ヶ丘の一部面積14.5平方キロメートルを境界変更により隣村上片桐村へ編入する。
昭和29年1月1日	飯島村は町制を施行し「飯島町」となる。
昭和31年9月30日	飯島町と七久保村が合併し、新「飯島町」となり現在に至る。

資料：飯島町HP（町の歴史と歩み）

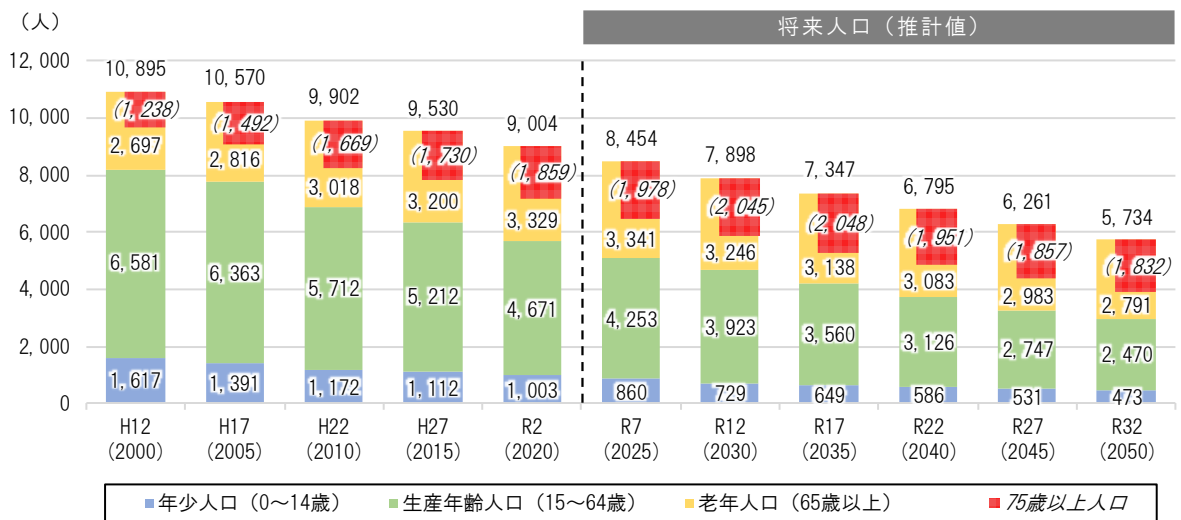
(3) 人口

①人口の推移

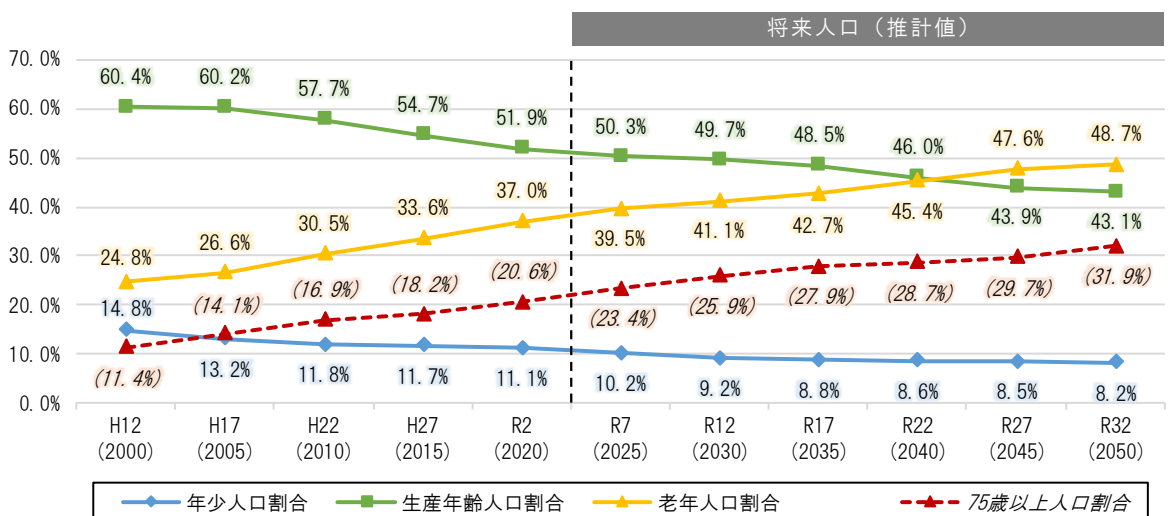
本町の人口は、平成 12（2000）年には 10,895 人でしたが、令和 2（2020）年には 9,004 人まで減少しています。将来的には、令和 32（2050）年には 5,734 人程度まで減少すると推測されています。

年齢 3 区分別人口の推移を見ると、年少人口（0～14 歳人口）と生産年齢人口（15～64 歳人口）は一貫して減少しており、少子化や労働力人口の縮小が進んでいます。一方、老年人口（65 歳以上人口）や 75 歳以上人口は増加を続けており、高齢化が顕著です。

将来の推計では、令和 27（2045）年において年少人口は 531 人（8.5%）、生産年齢人口は 2,747 人（43.9%）、老年人口は 2,983 人（47.6%）となり、老年人口が生産年齢人口を上回ると推測されています。また、令和 32（2050）年には 75 歳以上人口割合が 30%を超えると想定されています。



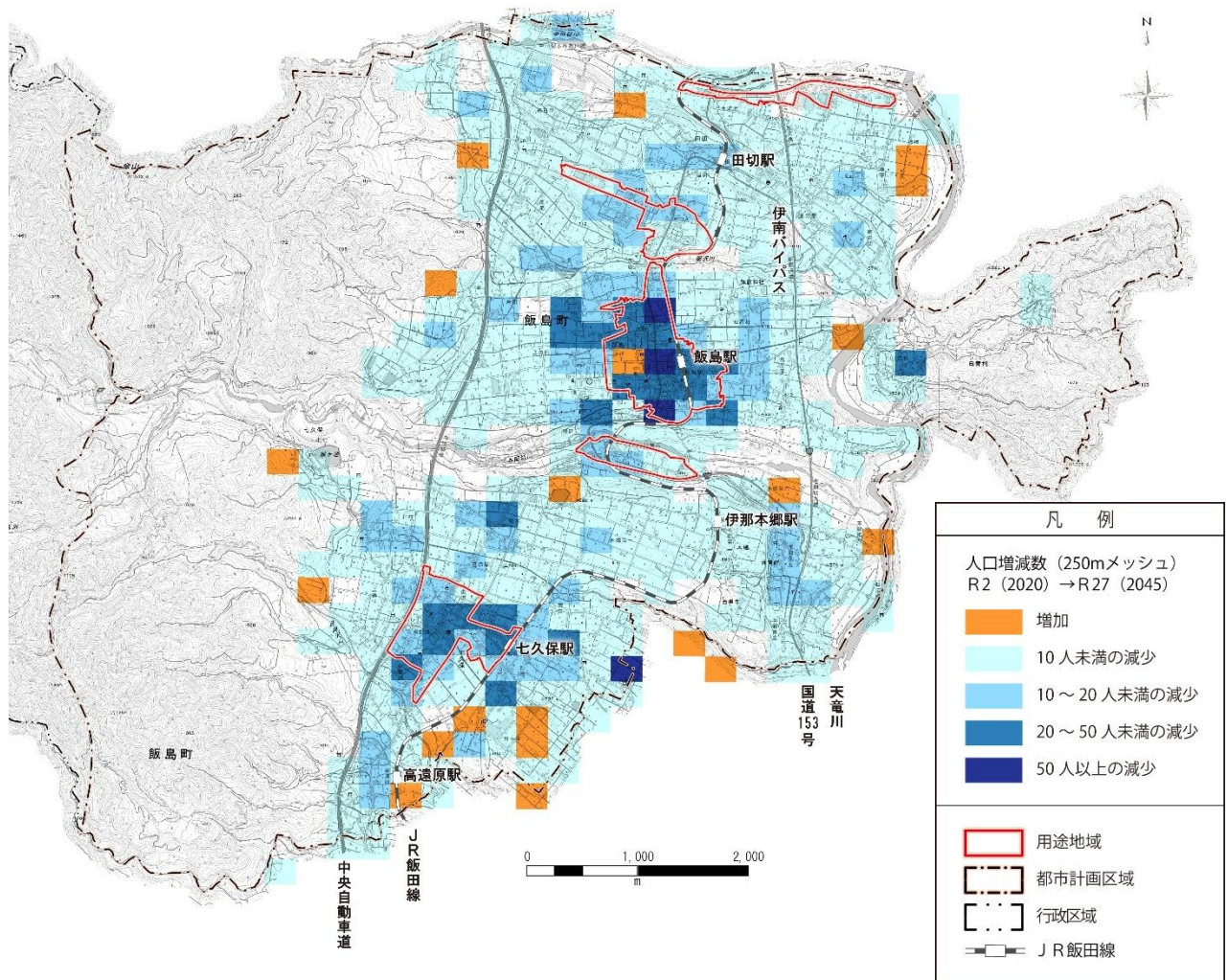
※平成 27（2015）年及び令和 2（2020）年の総人口は年齢不詳を含む。
資料：国勢調査(H12～R2)、国立社会保障・人口問題研究所「将来の地域別男女階級別人口（令和 5 年推計）」



資料：国勢調査(H12～R2)、国立社会保障・人口問題研究所「将来の地域別男女階級別人口（令和 5 年推計）」

図表 6. 年齢 3 区分別人口の推移と将来推計

令和2（2020）年から令和27（2045）年の人口増減数を見ると、町全体で人口減少が進行すると推測されています。特に、JR飯島駅西側やJR七久保駅西側の用途地域内での減少数が多くなっています。人口増加が予測されているエリアもありますが、その多くは用途地域外となっています。



資料：【令和2（2020）年】令和2年国勢調査「地域メッシュ統計（250mメッシュ）
【令和27（2045）年】国土数値情報「250mメッシュ別将来推計人口（R6国政局推計）」

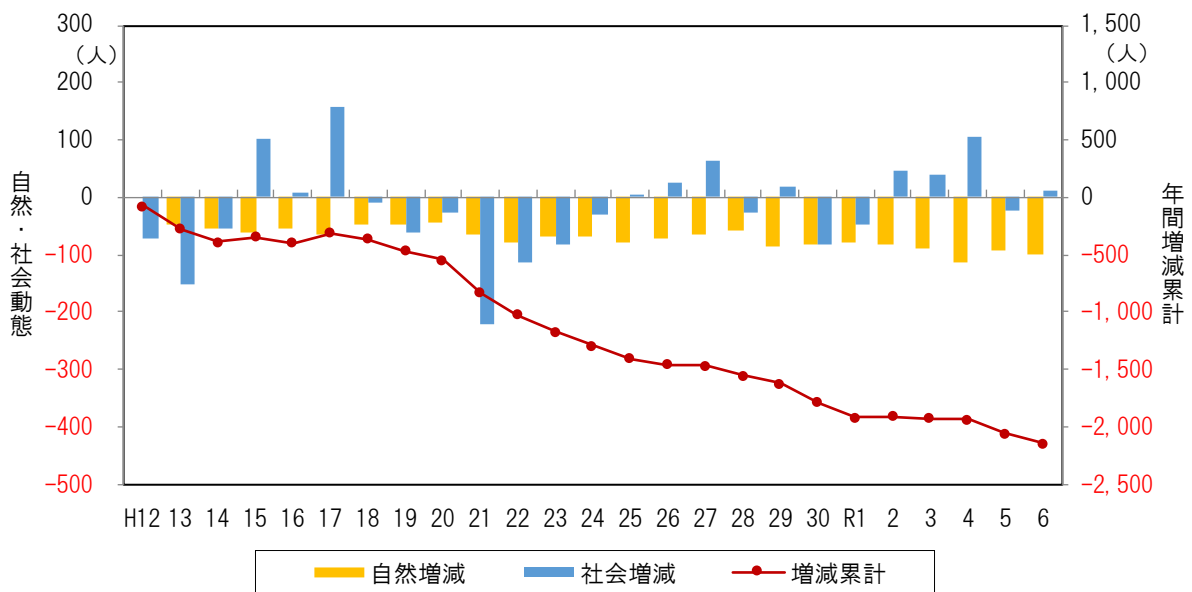
図表 7. 人口増減数の推移（令和2（2020）年 → 令和27（2045）年）

②人口動態

平成 12 (2000) 年から令和 6 (2024) 年までの人口動態をみると、自然増減は一貫してマイナス傾向であり、出生数より死亡数が上回る自然減が長期的に続いています。特に、年々自然減の幅が大きくなっており、令和 4 (2022) 年には過去最大の 113 人減を記録しています。

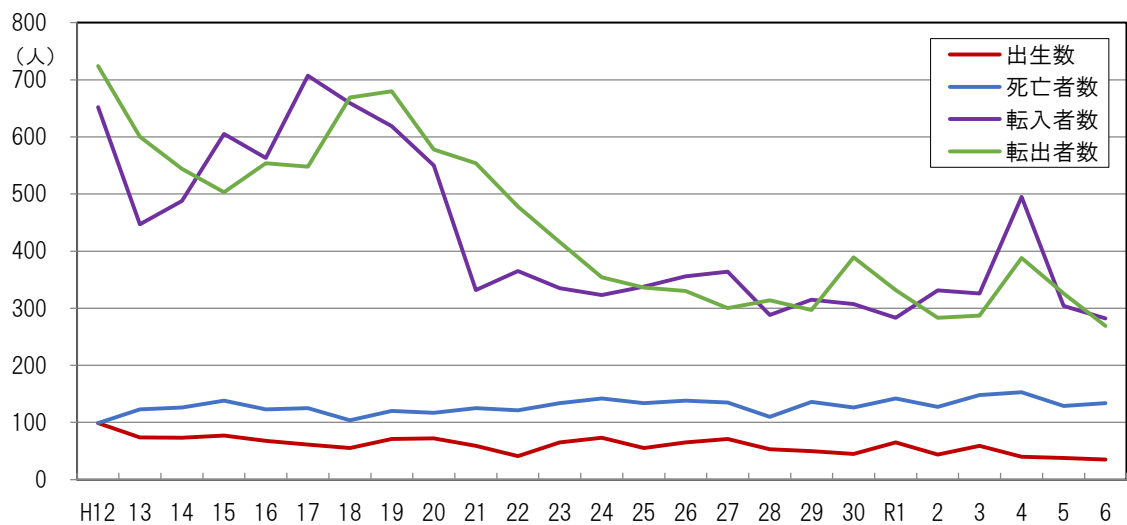
社会増減は年によって変動が大きく、平成 15 (2003) 年や平成 17 (2005) 年には大幅な増加がある一方で、平成 21 (2009) 年、平成 22 (2010) 年には 100 人以上の社会減が生じた年が確認できます。

平成 25 (2013) 年以降は社会増となる年もあるものの、全体としては転出超過が続き人口流出傾向にあり、24 年間の人口増減の累計減少数は 2, 145 人に達しています。



資料：毎月人口異動調査

図表 8. 人口動態の推移



資料：毎月人口異動調査

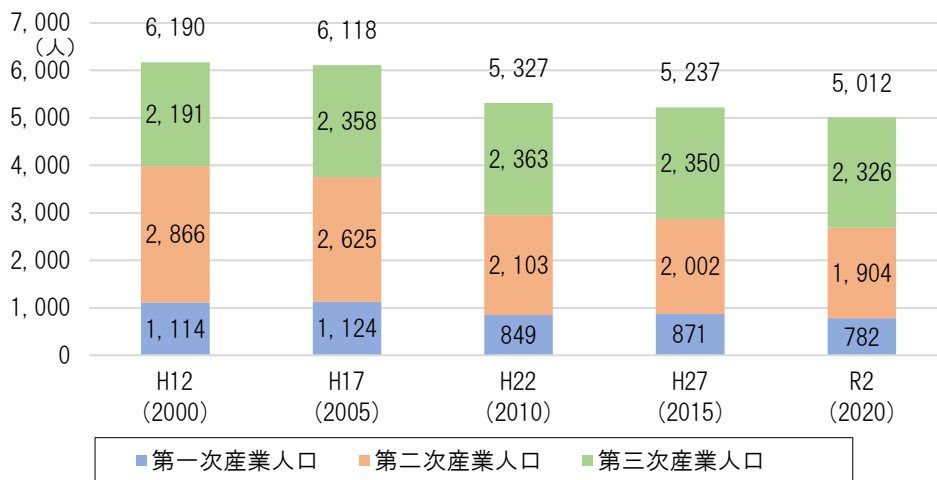
図表 9. 自然・社会動態の推移

(4) 産業

①産業別人口

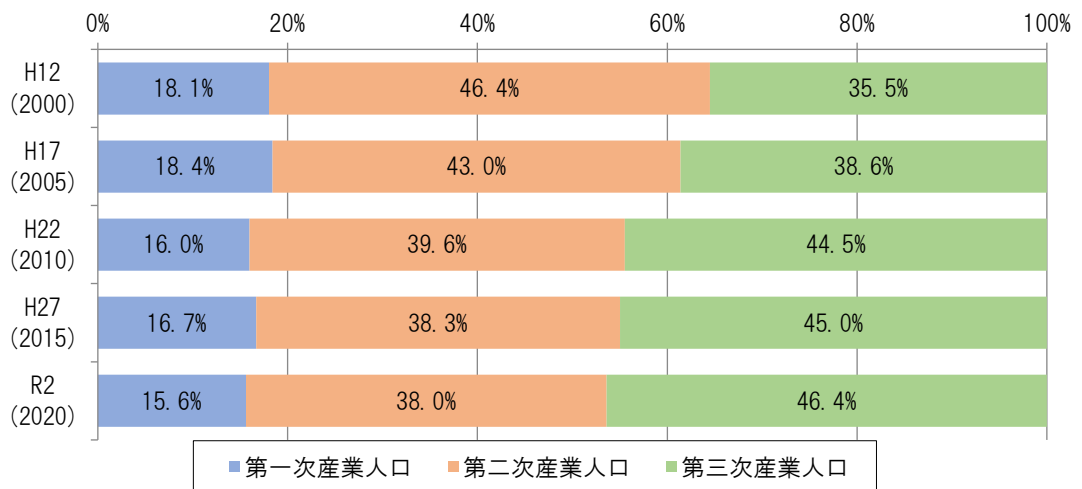
産業別人口の推移をみると、平成 12 (2000) 年から令和 2 (2020) 年の 20 年間で、およそ 2 割の減少となっています。産業の 3 区分別にみると、第一次産業人口及び第二次産業人口は減少傾向にある一方で、第三次産業人口は平成 17 (2005) 年まで増加し、それ以降は横ばいで推移しています。

構成比の推移をみると、第二次産業人口は平成 17 (2005) 年までは最も多くを占めていましたが、平成 22 (2010) 年以降は第三次産業人口がそれを上回っています。第一次産業人口は緩やかに減少しつつも、概ね一定の水準を維持しています。



資料：国勢調査

図表 10. 産業 3 区分別人口の推移



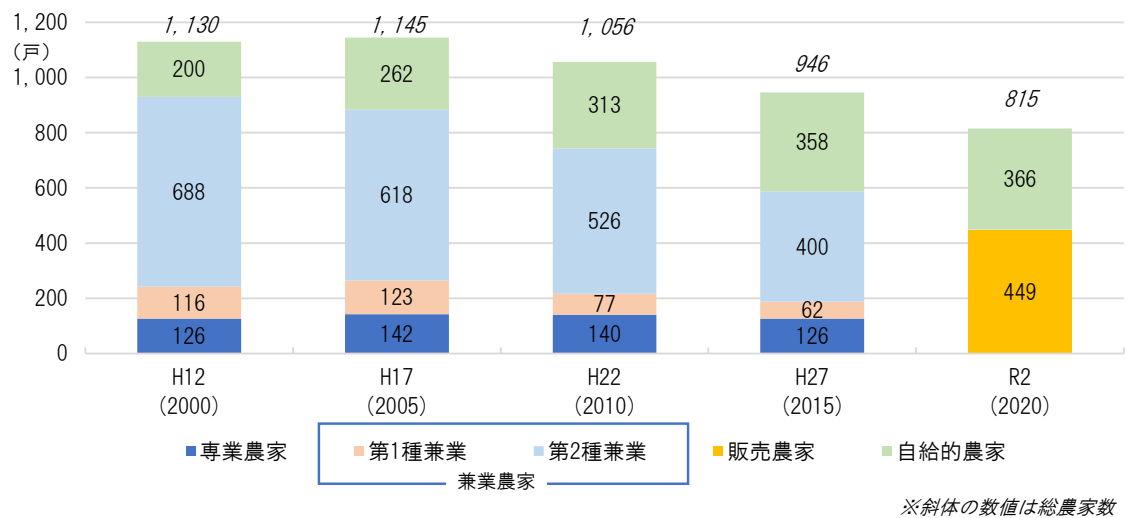
資料：国勢調査

図表 11. 産業 3 区分別人口構成比の推移

②農業

平成 12（2000）年と令和 2（2020）年の農家数の推移を比較すると、総農家数は約 3 割の減少となっており、特に販売農家（第 1 種及び第 2 種兼業農家）は半減しています。一方で、自給的農家は 1.8 倍にまで大幅に増加しています。

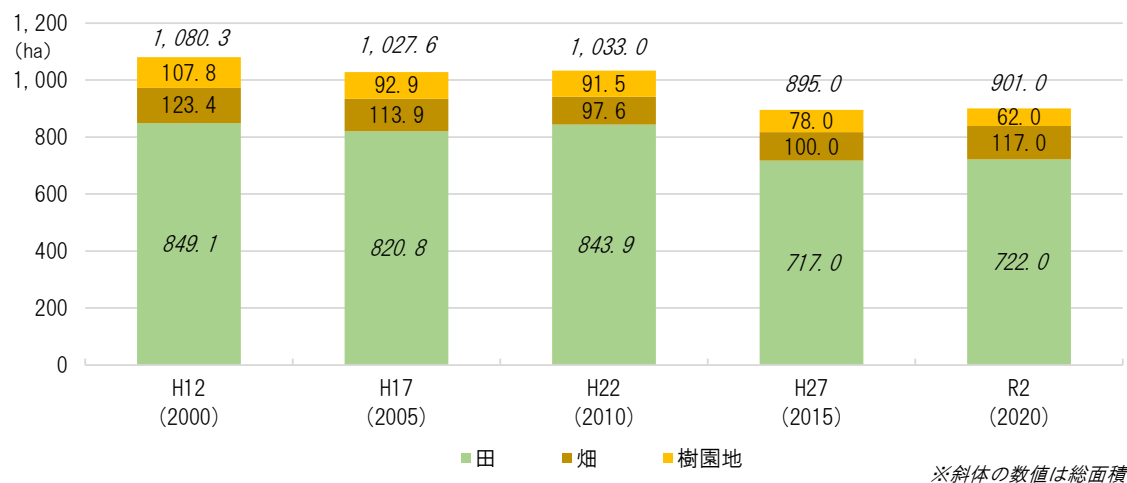
また、経営耕地面積も減少傾向にあり、特に樹園地は 20 年間で約 4 割の減少となっています。



※令和 2（2020）年より専業兼業別調査が廃止

資料：農林業センサス

図表 12. 農家数の推移



資料：農林業センサス

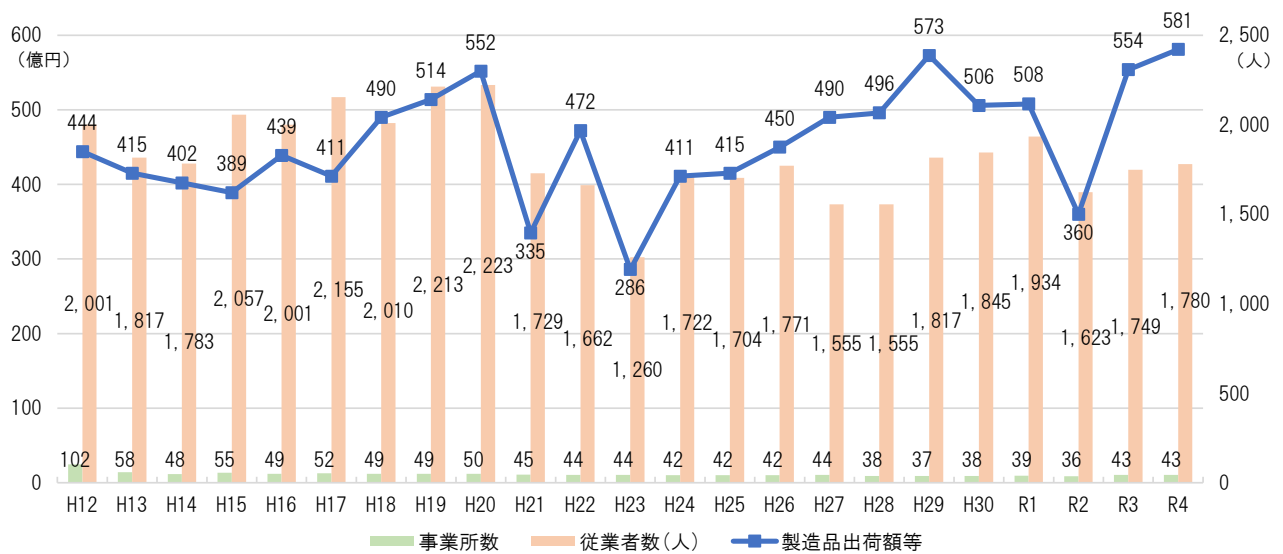
図表 13. 経営耕地面積の推移

③工業

平成 12 (2000) 年以降の工業の推移を見ると、製造品出荷額は年によって増減が見られるものの、全体として上昇傾向にあります。平成 12～15 年はやや減少しましたが、平成 16～20 年には増加し、平成 21 年及び平成 23 年に一度大幅に減少しました。その後も増減を繰り返しつつ、令和 4 (2022) 年には 581 億円となり、過去 20 年間に於いて最高水準に達しています。

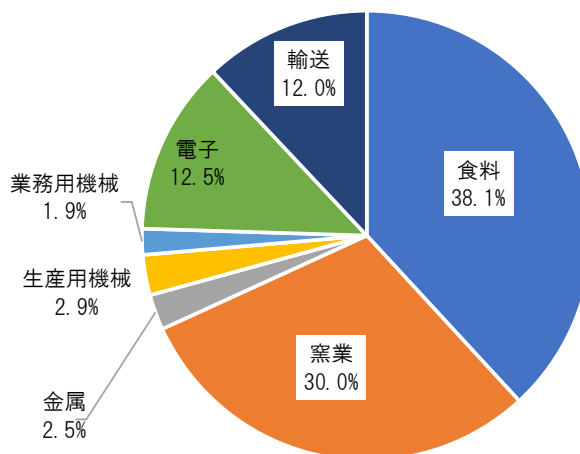
中分類別構成比を見ると、食料が 38.1%、窯業が 30.0%と大半を占めています。

一方、事業所数は平成 12 (2000) 年の 102 事業所から減少し、近年は 40 事業所前後で推移しています。また、従業者数は平成 26 (2014) 年頃までは製造品出荷額の変動と同様に推移していましたが、その後は従業者数の減少に対して製造品出荷額は増加しており、生産効率の向上がうかがえます。



資料：工業統計書、経済センサス・活動調査(製造業)

図表 14. 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移



資料：工業統計書、経済センサス・活動調査(製造業)

図表 15. 産業中分類別製造品出荷額等の構成比(令和4(2022)年)

④商業

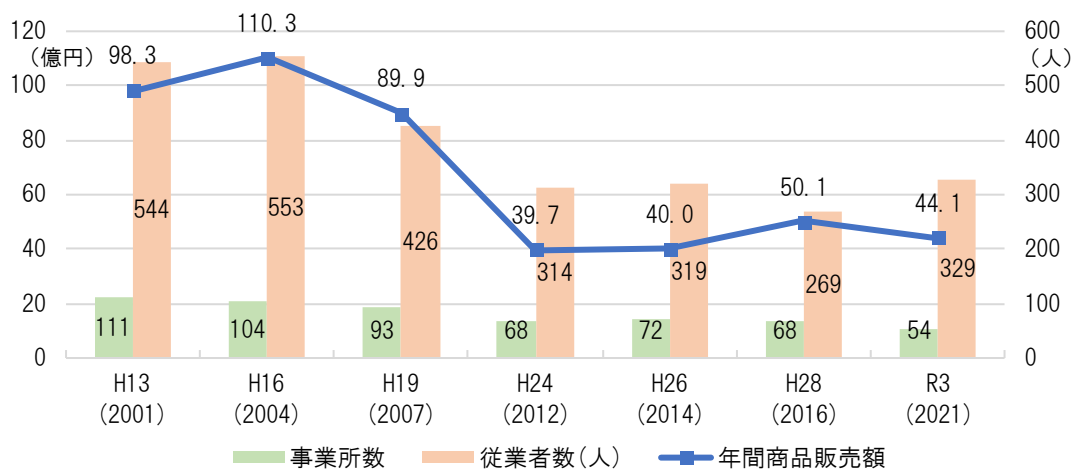
平成 13 (2001) 年から令和 3 (2021) 年までの商業の推移を見ると、年間商品販売額は平成 19 (2007) 年まではおおむね 100 億円前後で推移していましたが、平成 24 (2012) 年以降は半減し、以後は約 40~50 億円程度で横ばいとなっています。

事業所数は平成 16 (2004) 年を境に減少しており、令和 3 (2021) 年には卸売業、小売業ともに半減しています。従業者数も同様に減少しており、特に卸売業ではピーク時の半数程度まで減少しています。一方、小売業は事業所数の減少幅に比べ、従業者数は比較的緩やかな減少にとどまっています。

令和 3 (2021) 年度の南信地域における商圈構造では、本町は駒ヶ根市の一次商圈、伊那市の二次商圈に位置しています。平成 30 (2018) 年までは伊那市の三次商圈に位置していましたが、現在は二次商圈として取り込まれています。

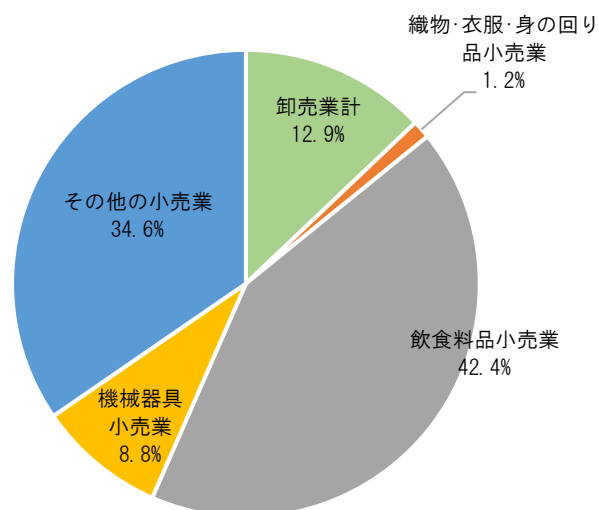
地元滞留率は経年的に 5%未満で推移しており、令和 3 年度は 4.4%となっています。

また、令和 3 (2021) 年の産業中分類別商品販売額の構成比を見ると、飲食料品小売業が 42.4%と最も多く、次いでその他の小売業が 34.6%となっています。



資料：商業統計調査、経済センサス

図表 16. 事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



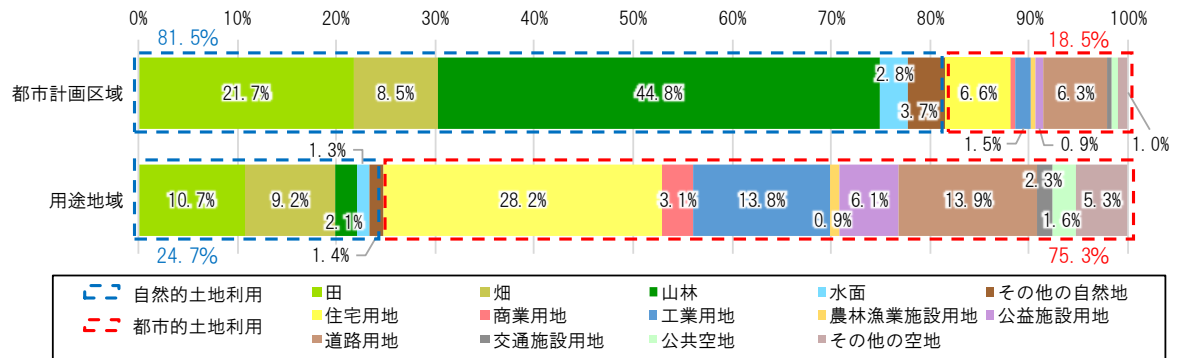
資料：経済センサス

図表 17. 産業中分類別年間商品販売額の構成比 (令和 3 (2021) 年)

(5) 土地利用

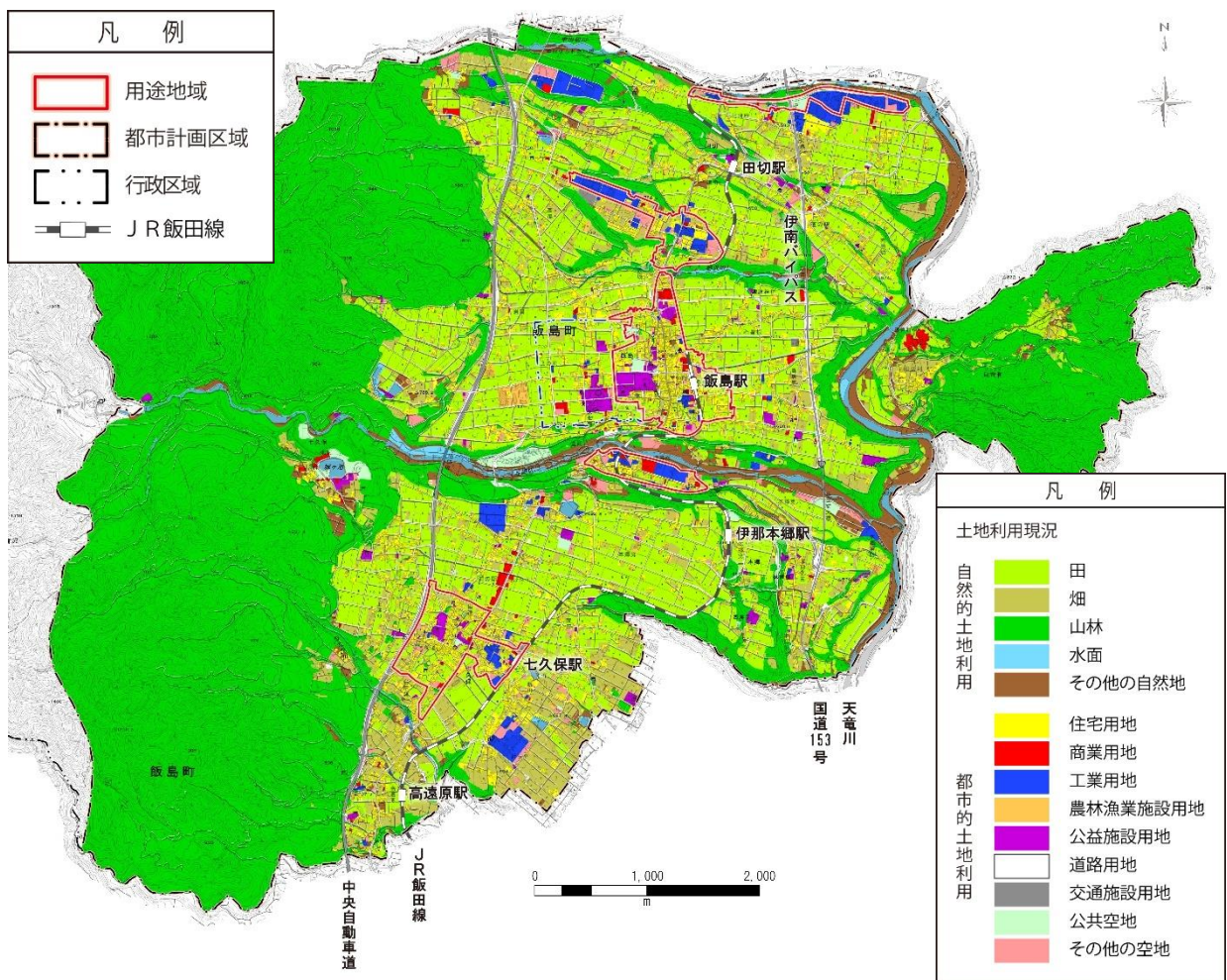
本町の土地利用の現況をみると、都市計画区域内（4,608ha）のうち、農地（田・畑）や山林などの自然的土地利用の面積は全体の81.5%を占めています。

また、用途地域内では、都市的土地利用の面積は全体の75.3%を占めており、そのうち宅地（住宅用地・商業用地・工業用地）は45.1%となっています。自然的土地利用の面積は24.7%であり、そのうち農地が19.9%残存しています。



資料：都市計画基礎調査（R7）

図表 18. 土地利用面積構成比



資料：都市計画基礎調査（R7）

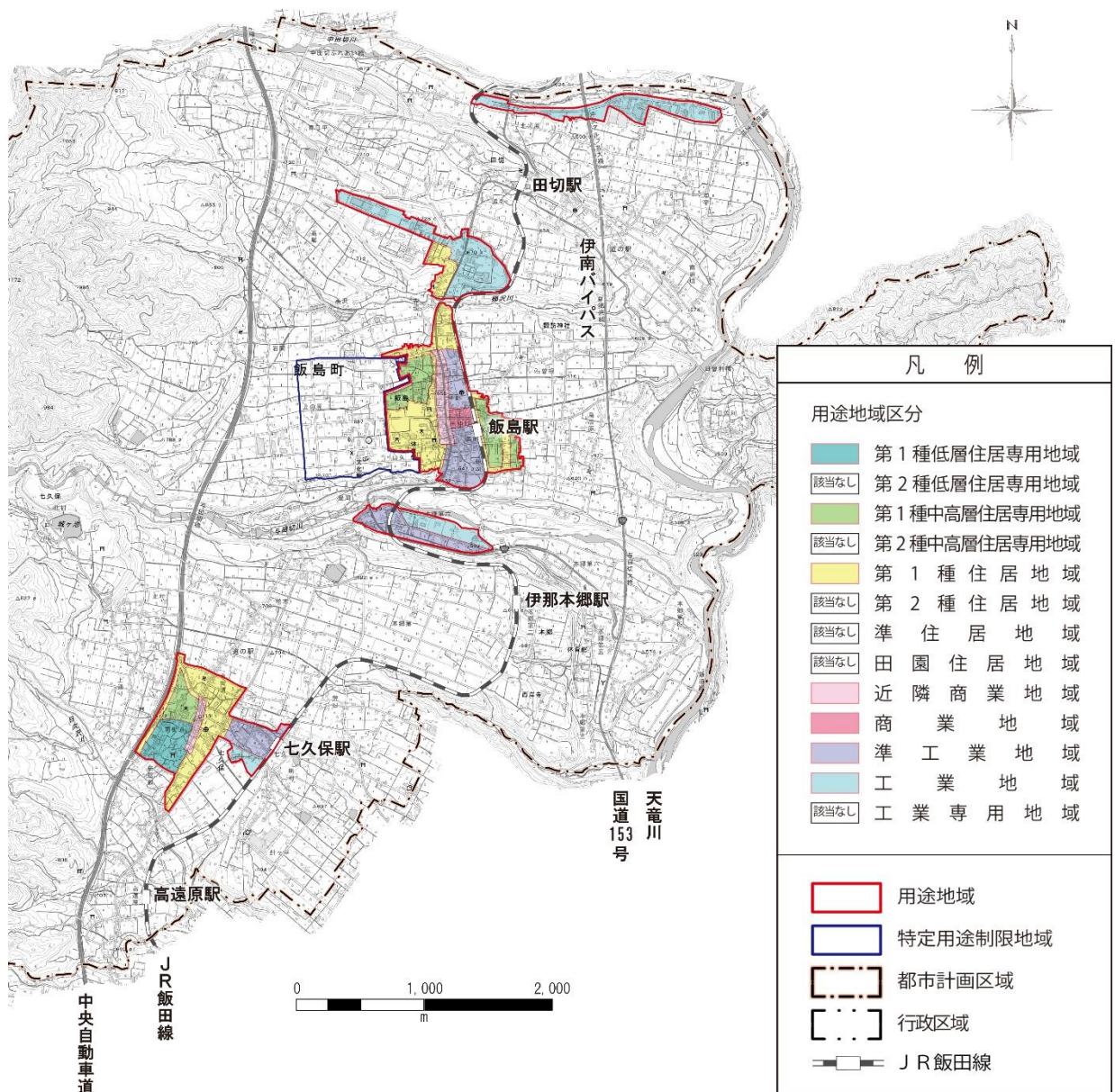
図表 19. 土地利用現況図

(6) 地域地区

本町の地域地区は、用途地域が定められています。

用途地域は、昭和 54 (1979) 年に当初決定され、平成 7 (1995) 年に用途地域区分の細分類による変更決定が行われ、全 7 種類 (総面積 218ha) が指定されています。用途地域の面積は、都市計画区域面積 (4,608ha) の 4.7% を占めています。

また、特定用途制限地域は、飯島町役場から伊那中部広域農道沿道までの範囲が令和 8 (2026) 年に指定されています。



資料：飯島町都市計画図

図表 20. 地域地区の指定状況

(7) 都市施設

都市計画道路は、昭和 55（1980）年に 7 路線、平成 9（1997）年に 2 路線が都市計画決定されており、9 路線（総延長 14,890m）となっています。令和 7 年 3 月時点の改良済延長は 500 m（改良率 3.36%）となっています。長野県全体の平均改良率 50.23%に対して、本町の都市計画道路の改良率は低い状況にあり、都市計画道路のあり方の見直しや計画的な整備の推進が求められています。

都市計画公園は、地区公園として与田切公園が 1 箇所のみ都市計画決定されており、平成 9（1997）年に事業が完了しています。その他に都市公園はありません。

その他の都市施設として、公共下水道（301ha）、汚物処理場（1.2ha）、ごみ焼却場（2.5ha）が計画決定されています。

図表 21. 都市施設の決定状況

決定年月日	都市施設名称	都市計画決定事項	事業期間	備考
	都市計画道路			
昭和55年 4月 3日	飯島 1 号線	延長約1,140m 幅員16m		
	飯島 2 号線	延長約1,210m 幅員12~16m 駅前広場 約2,500㎡	平成7年~平成14年	約350m
	飯島 3 号線	延長約480m 幅員16m		
	飯島 4 号線	延長約4,290m 幅員12~16m	平成7年~平成14年	約150m
	飯島 5 号線	延長約1,040m 幅員14m		
	飯島 6 号線	延長約420m 幅員12m		
	飯島 7 号線	延長約1,040m 幅員12m		
平成 9年 7月10日	伊南バイパス線	延長約4,380m 幅員24.5~28.0m	平成16年~	
	飯島 8 号線	延長約890m 幅員16m		
	都市計画公園			
昭和56年10月19日	与田切公園	地区公園 5.8ha	昭和56年10月19日 ~ 平成9年4月1日	整備済
	公共下水道			
平成 6年 7月13日	飯島町公共下水道	計画面積 174ha		
平成15年 8月27日		計画面積 299ha		
平成21年12月 9日	飯島処理区 七久保処理区	計画面積 301ha 202ha 99ha		
	汚物処理場			
昭和55年 9月20日	伊南行政組合衛生センター	面積 1.2ha		※
	ごみ焼却場			
平成27年 1月23日	上伊那クリーンセンター	面積 2.5ha		※

資料：都市計画基礎調査

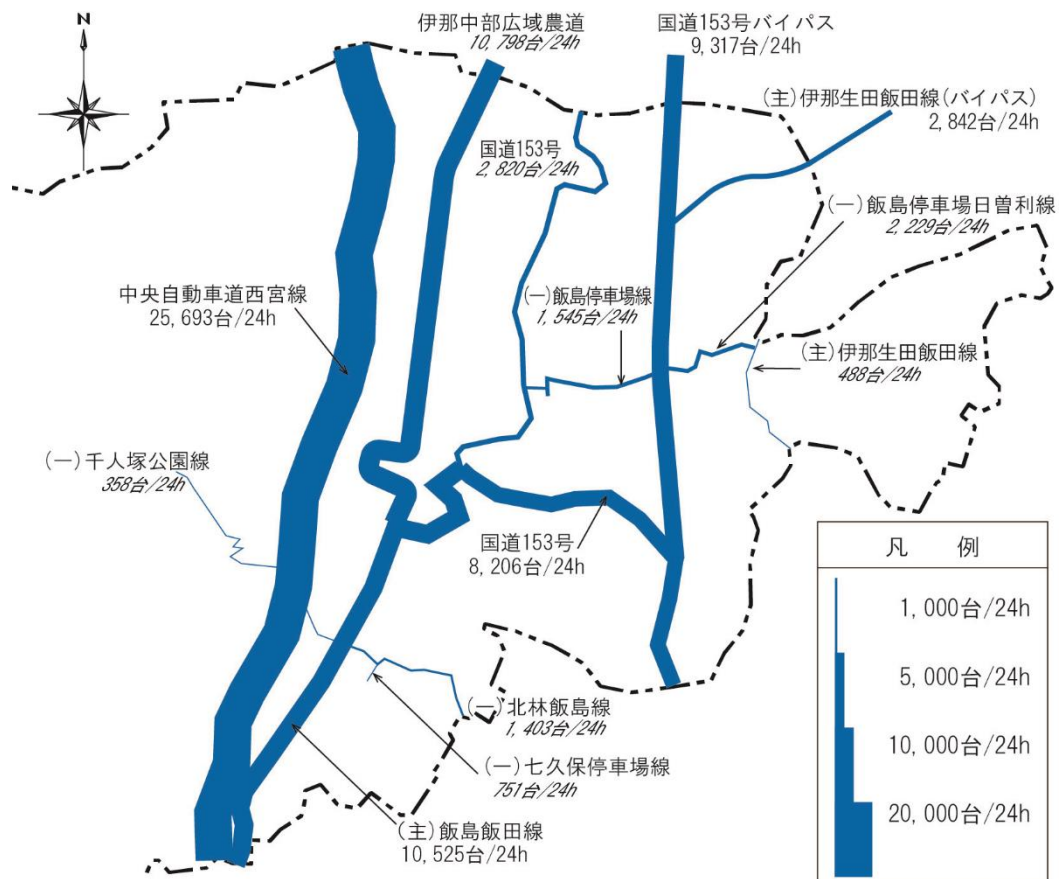
※計画決定のみで飯島町に施設は存在しない。

(8) 交通

①自動車交通量

主要道路の平日 24 時間交通量を見ると、南北方向では中央自動車道が 25,693 台/24h と最も多く、次いで (主) 飯島飯田線及び伊那中部広域農道が 10,000 台/24h を超えています。国道 153 号 (伊南バイパス) は 9,317 台/24h の交通量がある一方で、市街地を通過する国道 153 号の区間では 2,820 台/24h にとどまっています。

東西方向では、(主) 伊那生田飯田線 (バイパス) が 2,842 台/24h、(一) 飯島停車場日曾利線が 2,229 台/24h となっています。



※斜体は、12時間交通量を24時間換算にした推定値

資料：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査、令和4年度駒ヶ根市調査

図表 22. 主要道路の自動車断面交通量 (平日 24 時間)

②公共交通

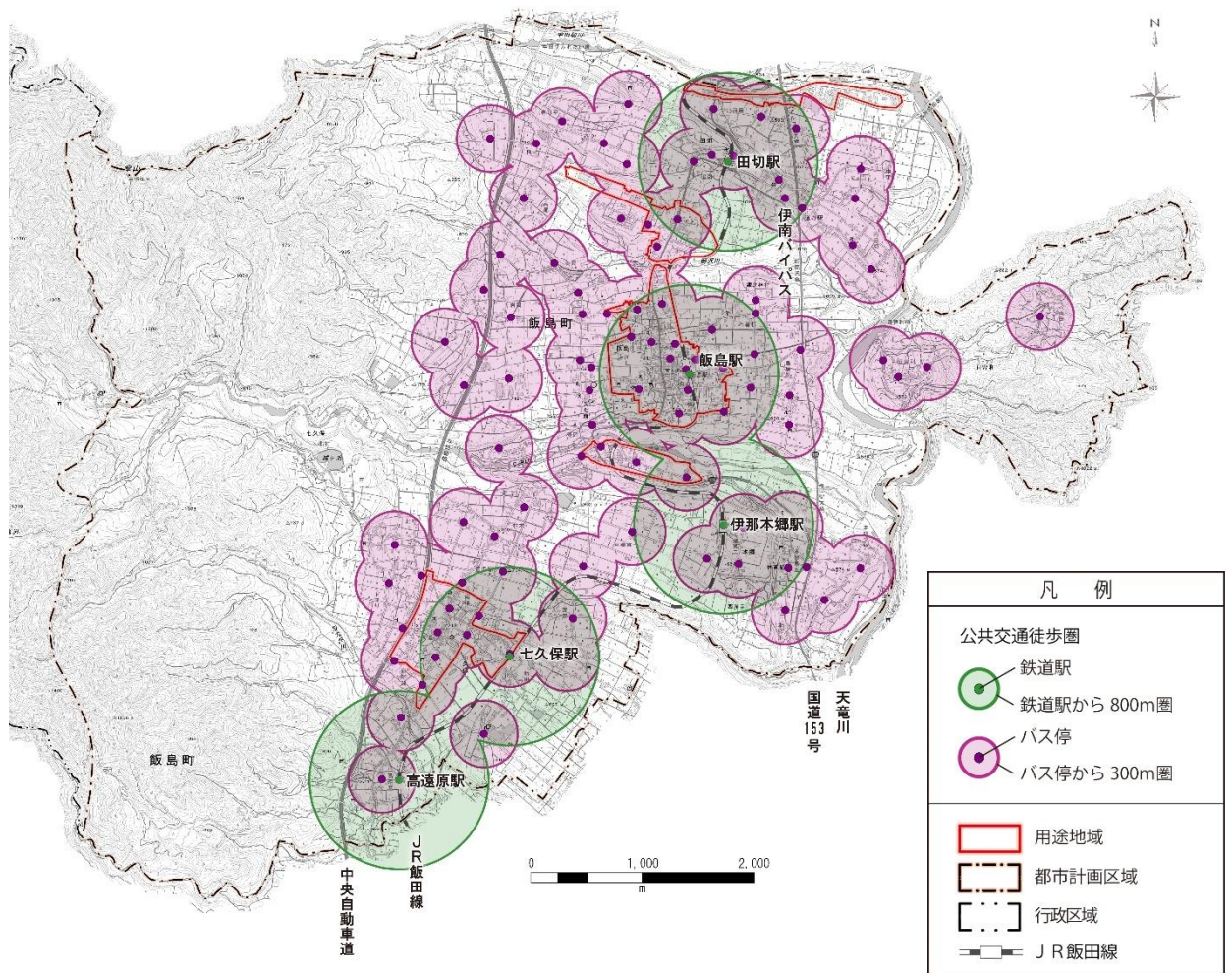
1) 運行エリア

鉄道はJ R飯田線が運行しており、町内には田切駅、飯島駅、伊那本郷駅、七久保駅、高遠原駅の5駅があります。

バスは、生活交通の確保と利便性の向上を目的として「いいちゃんバス」が平成21(2009)年より運行されています。路線は、地域線(南部区域・北部区域)と、駒ヶ根市の昭和伊南総合病院からJ R飯島駅を結ぶ病院線で構成されています。

地域線(南部区域・北部区域)は、予約のあるバス停のみを運行するデマンド方式、病院線は一部停留所を除き予約不要の定時・定路線方式で運行されています。

用途地域内のほぼ全域が公共交通徒歩圏*となっています。



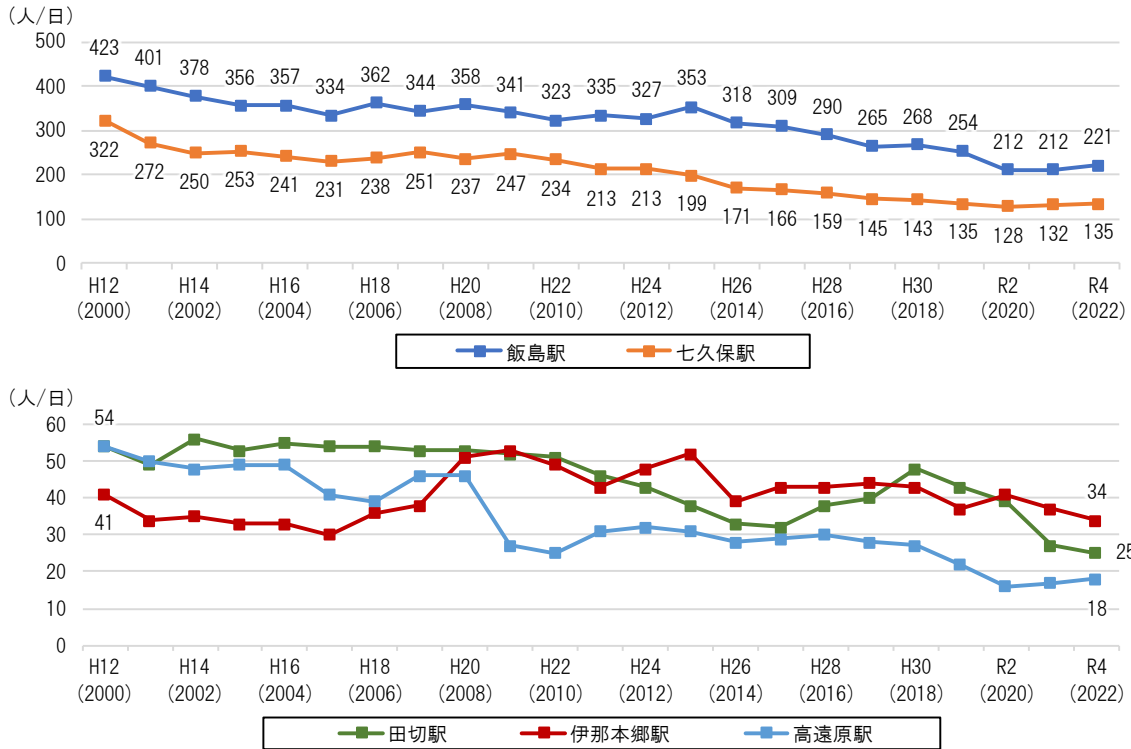
資料：国土数値情報、都市計画基礎調査(R7)ほか

図表 23. 公共交通(鉄道・バス)の運行エリア

※公共交通徒歩圏 … 国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック(平成24(2014)年8月)」では、一般的な徒歩圏は800m、バス停からの徒歩圏は300mとされている。そのため、本計画では、町内全ての鉄道駅から800m圏及び町内全てのバス停から300m圏を公共交通徒歩圏とした。

2) J R 飯田線の利用者数

平成 12 (2000) 年から令和 4 (2022) 年までの 1 日平均乗車人員数の推移を見ると、伊那本郷駅を除く町内 4 駅で減少傾向にあります。町内 5 駅の令和 4 (2022) 年の一日平均乗車人員数の合計は 433 人であり、平成 12 (2000) 年 (894 人) の半分程度にまで減少しています。

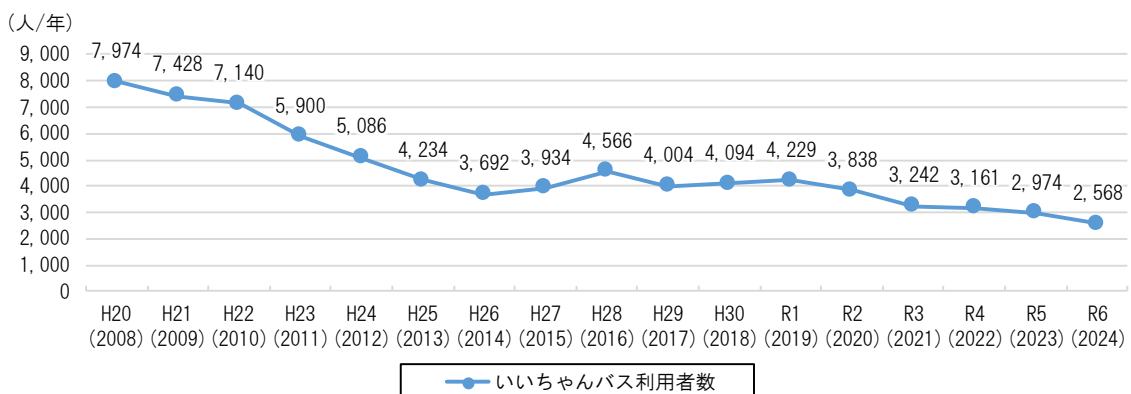


資料：長野県統計書

図表 24. J R 飯田線の 1 日平均乗車人員数の推移

3) いいちゃんバスの利用者数

いいちゃんバスの年間利用者数の推移を見ると、平成 20 (2008) 年※から平成 26 (2014) 年までは一貫して減少傾向でしたが、その後は横ばいからやや増加傾向となっています。しかし、令和元 (2019) 年を境として、再び減少傾向に転じています。



資料：庁内資料
※平成 20 年は試行運転

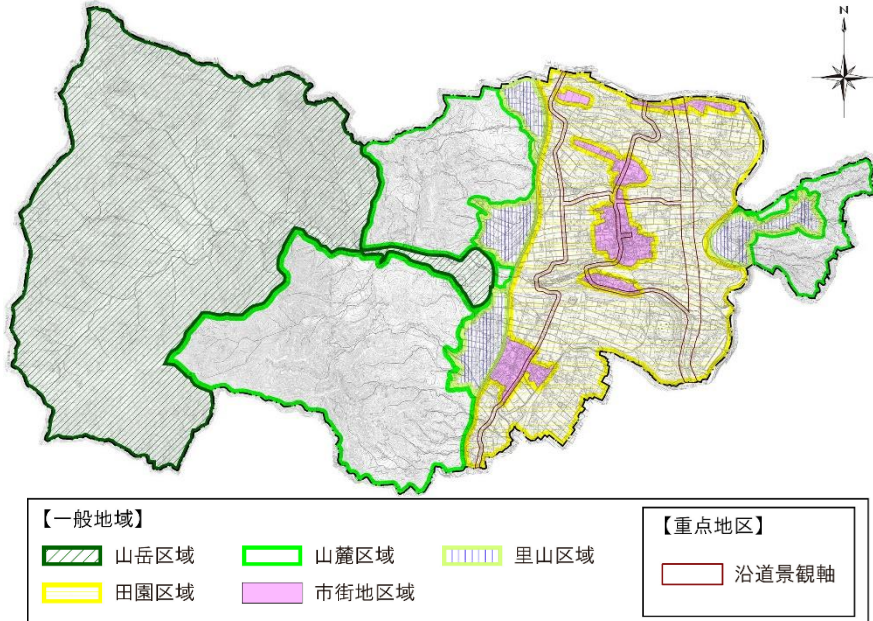
図表 25. いいちゃんバスの年間利用者数の推移

(9) 景観

本町は、平成 30 (2018) 年 9 月に景観法の規定に基づく「飯島町景観計画」を施行し、建築物の建築等に関わる届出制度を開始しています。

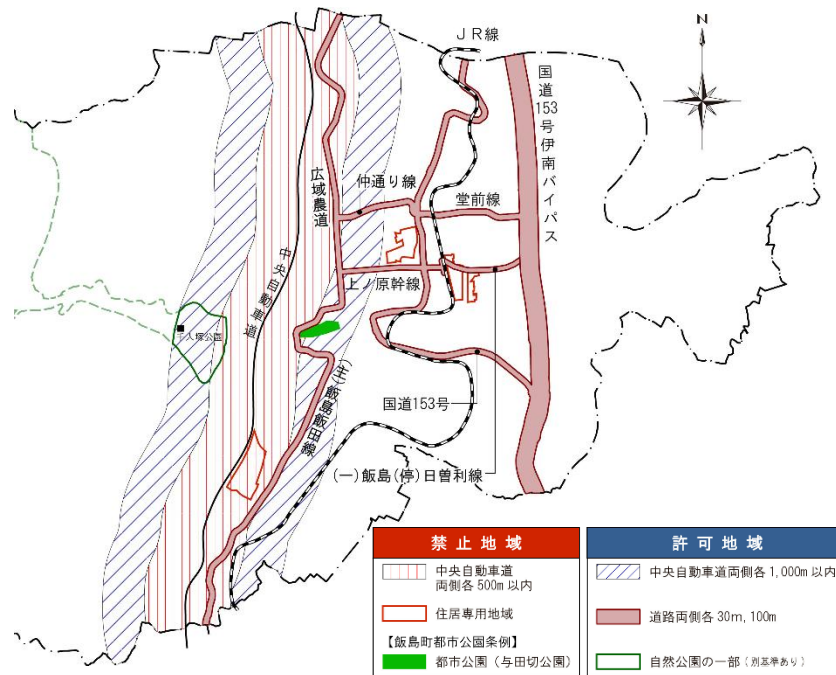
町の景観形成を進めるうえで特に重要な地区については、「景観形成重点地区」として指定し、重点的な景観形成を推進しています。現在は、「ふたつのアルプスが見える町」として重要な場所となる伊南バイパスや主要な道路の沿道を「沿道景観軸」として位置づけています。

また、屋外広告物法の規定に基づく「飯島町屋外広告物条例」を平成 31 (2019) 年 8 月に施行し、屋外広告物の表示や掲出物件の設置に関する基準を定めています。



資料：飯島町景観計画

図表 26. 飯島町景観計画 区域区分



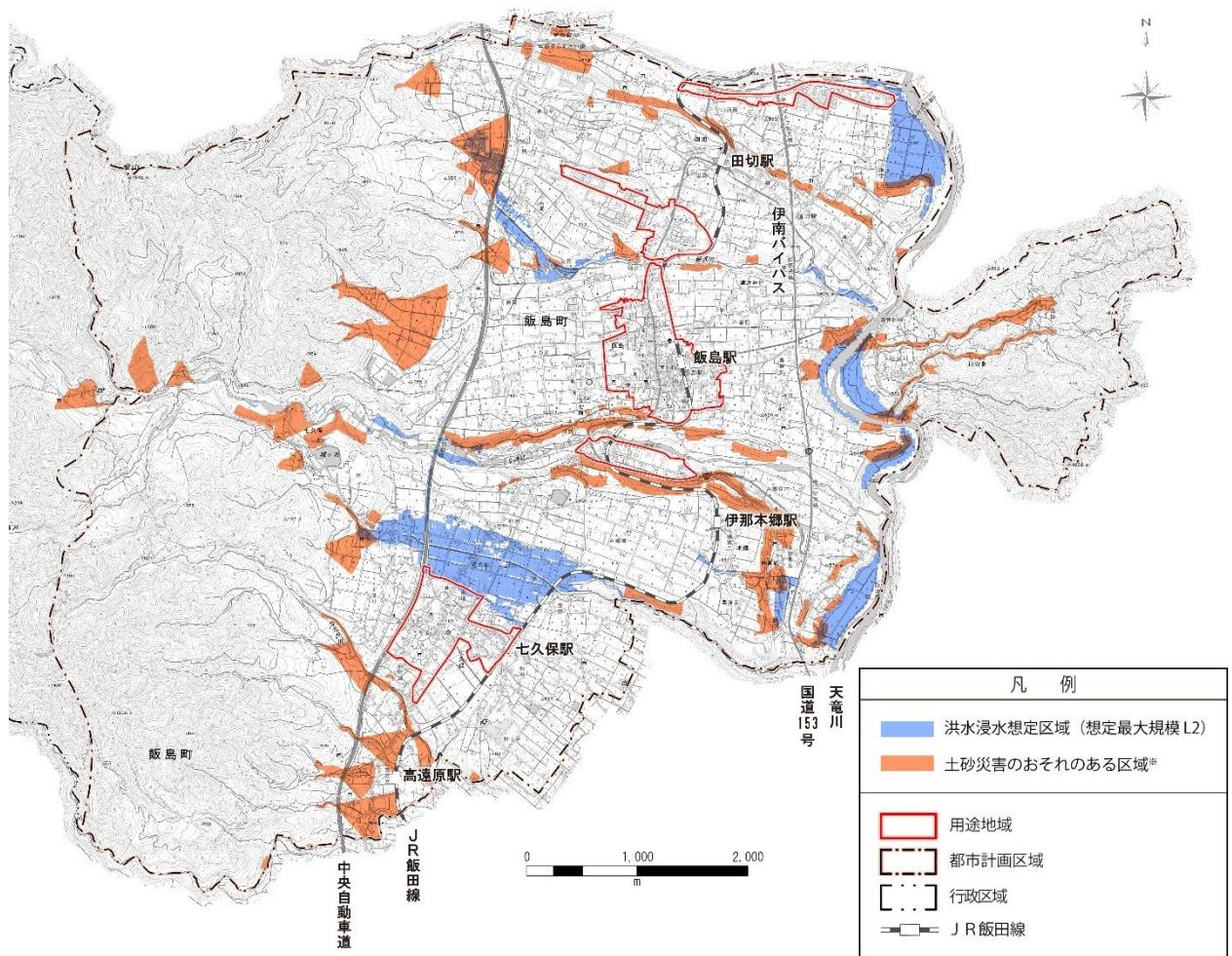
資料：飯島町屋外広告物の手引き

図表 27. 屋外広告物規制地域

(10) 災害

本町には一級河川の天竜川をはじめとして、天竜川水系の河川が多く位置しています。これらの河川沿岸は、1,000年に1回程度の最大規模での降雨を想定した、想定最大規模(L2)における洪水浸水想定区域が指定されています。

また、急傾斜崩壊危険区域や土砂災害特別警戒区域などの土砂災害のおそれのある区域は、町内各所に分布しています。一方、用途地域内においては、概ね洪水浸水想定区域や土砂災害のおそれのある区域の分布は見られません。



資料：国土数値情報、信州くらしのマップ

図表 28. 災害のおそれのある区域

2 住民意向

飯島町都市計画マスタープラン改訂及び飯島町立地適正化計画策定に際し、住民意向を反映させた計画立案を行うため、住民を対象としたアンケート調査とワークショップを実施しました。

(1) アンケート調査

① 目的

飯島町都市計画マスタープラン改訂及び飯島町立地適正化計画の策定に際し、住民の現状やこれからの飯島町のまちづくりに関する意向等を把握し、それらを計画に反映させていくことを目的としました。また、将来を担う若者の意見も計画に反映させることを目的として、住民アンケートと可能な限り同様の設問構成で中学生を対象としたアンケートも実施しました。

② 概要

<住民アンケート>

調査対象	令和元(2019)年7月に実施したアンケートの年代別回収率より傾斜配分により抽出した、住民基本台帳における満15歳以上(中学生は除く)の住民1,500人
調査方法	配布方法：郵送 回収方法：いいちゃんポストへ投函 または WEB回答
調査期間	令和5(2023)年10月19日(木)～11月24日(金)
回収状況	有効回収数：527通(回収率：35.1%)

<中学生アンケート>

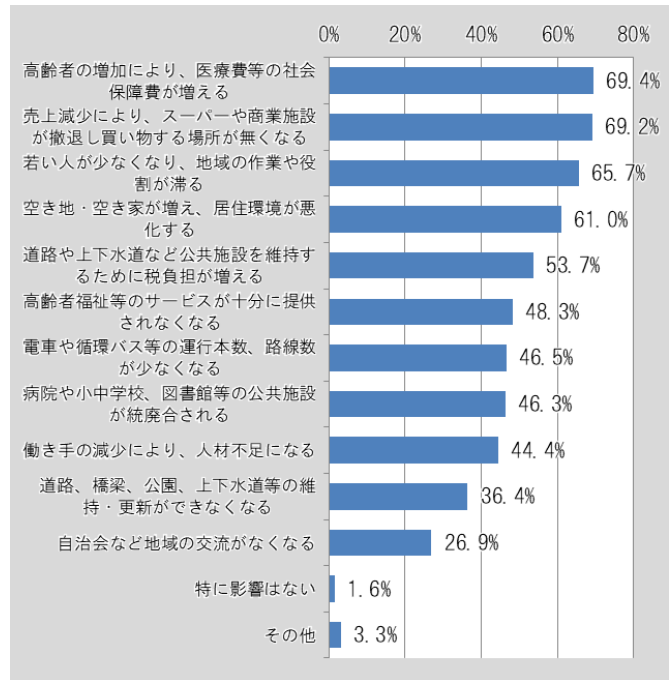
調査対象	飯島中学校 2年生及び3年生(129名)
調査方法	配布方法：「総合的な学習の時間」にて回答フォーム配布 回収方法：WEB回答
調査期間	令和6(2024)年5月15日(水)～7月19日(金)
回収状況	有効回収数：94通(回収率：72.8%)

③ 主なアンケート結果

<住民アンケート>

【少子高齢社会に起因する影響への認識】 問 13

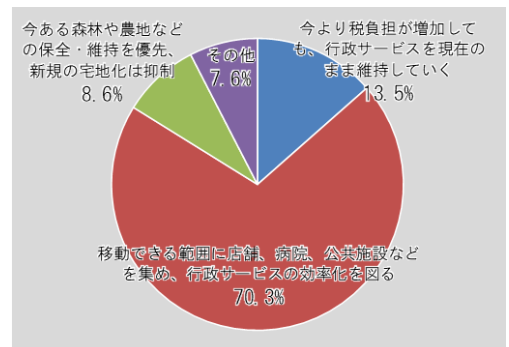
「高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える」が69.4%と最も多くなっています。また、「売上減少により、スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所がなくなる」「若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る」「空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する」の項目も60%を超えています。



【人口減少等による影響に対する行政の取り組み方針】 問 14

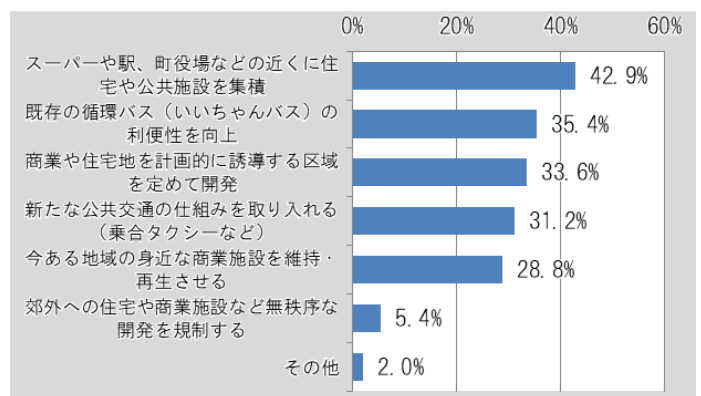
「移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集め、行政サービスの効率化を図る」が70.3%と最も多くなっています。

一方で、「今よりも税負担が増加しても、行政サービスを現在のまま維持していく」は13.5%にとどまっています。



【コンパクトシティ形成に向けた重点施策】 問 15

コンパクトシティ形成に向けた施策は、「移動が少なくても快適に住み続けられるよう、スーパーなどの商業施設や駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積させる」が42.9%と最も多くなっています。次いで、「既存の循環バス（いいちゃんバス）を今よりも便利で使いやすくする」が35.4%となり、「新たな公共交通の仕組みを取り入れる（乗合タクシーなど）」の31.2%を合わせると66.6%となります。

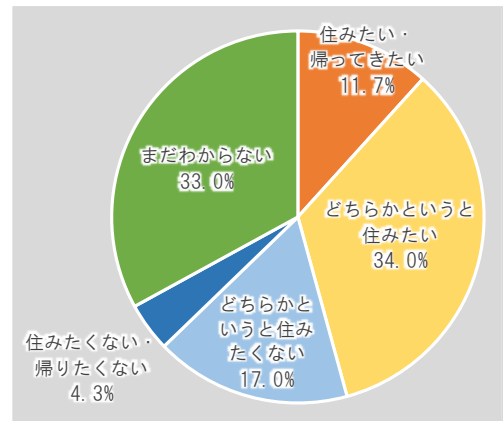


<中学生アンケート>

【将来の居住意向】 問7

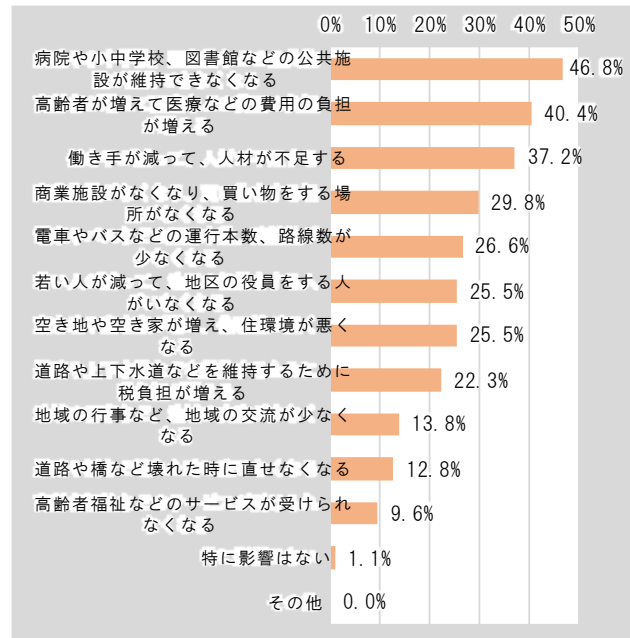
「どちらかというに住みたい」が34.0%と最も多く、「住みたい・帰ってきたい」の11.7%を合わせると45.7%となっています。

一方で、「どちらかというに住みたくない」と「住みたくない・帰りたくない」を合わせると21.3%であり、「まだわからない」も33.0%となっています。



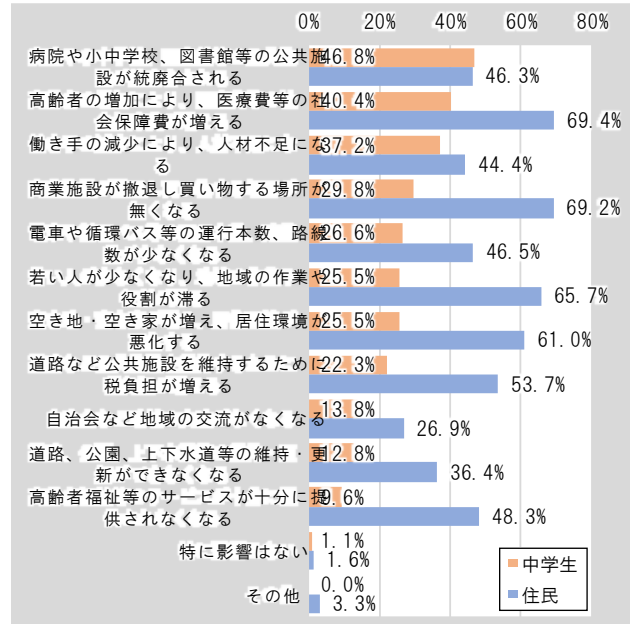
【少子高齢社会に起因する影響への認識】 問9

「病院や小中学校、図書館などの公共施設が維持できなくなる」が46.8%と最も多く、次いで、「高齢者が増えて医療などの費用の負担が増える」が40.4%、「働き手が減って、人材が不足する」が37.2%となっています。



住民アンケート（問13）と中学生アンケート（問9）を比較すると、中学生は、病院や小中学校など公共施設の統廃合や高齢者の増加による医療費の増加には関心がある一方、買い物の場や若者の数の減少、空き家の増加などには関心が薄い傾向が見られます。

住民は全般的に高い割合で地域課題を懸念しており、世代間で課題認識の強さに差があることがわかります。



(2) 住民ワークショップ

① 目的

飯島町都市計画マスタープラン改訂及び飯島町立地適正化計画の策定に際し、地区ごとの課題や特色、これからのまちづくりへの要望や課題等を把握し、それらを計画に反映させていくことを目的としました。また、住民の方に計画の概要を説明し、理解を深めていただくことも目的としました。

② 概要

開催日	令和6（2024）年 8月17日（土） 8月22日（木）
開催場所	飯島町文化館 中ホール
参加人数	51人（2日間延べ人数）
テーマ	地区の特色や課題 ①「私たちの地区ってどんなところだろう」 ②「地区の良いところ・悪いところを探してみよう」 都市の骨格と施設整備 ③「暮らしやすい飯島町になるために必要なものや必要なことは何だろう」

③ 主な住民意向

<飯島地区・田切地区>

テーマ1 私たちの地区ってどんなところだろう

テーマ2 地区の良いところや悪いところを探してみよう

■ 飯島地区 ■ 田切地区

○ 良いところ ▲ 悪いところ



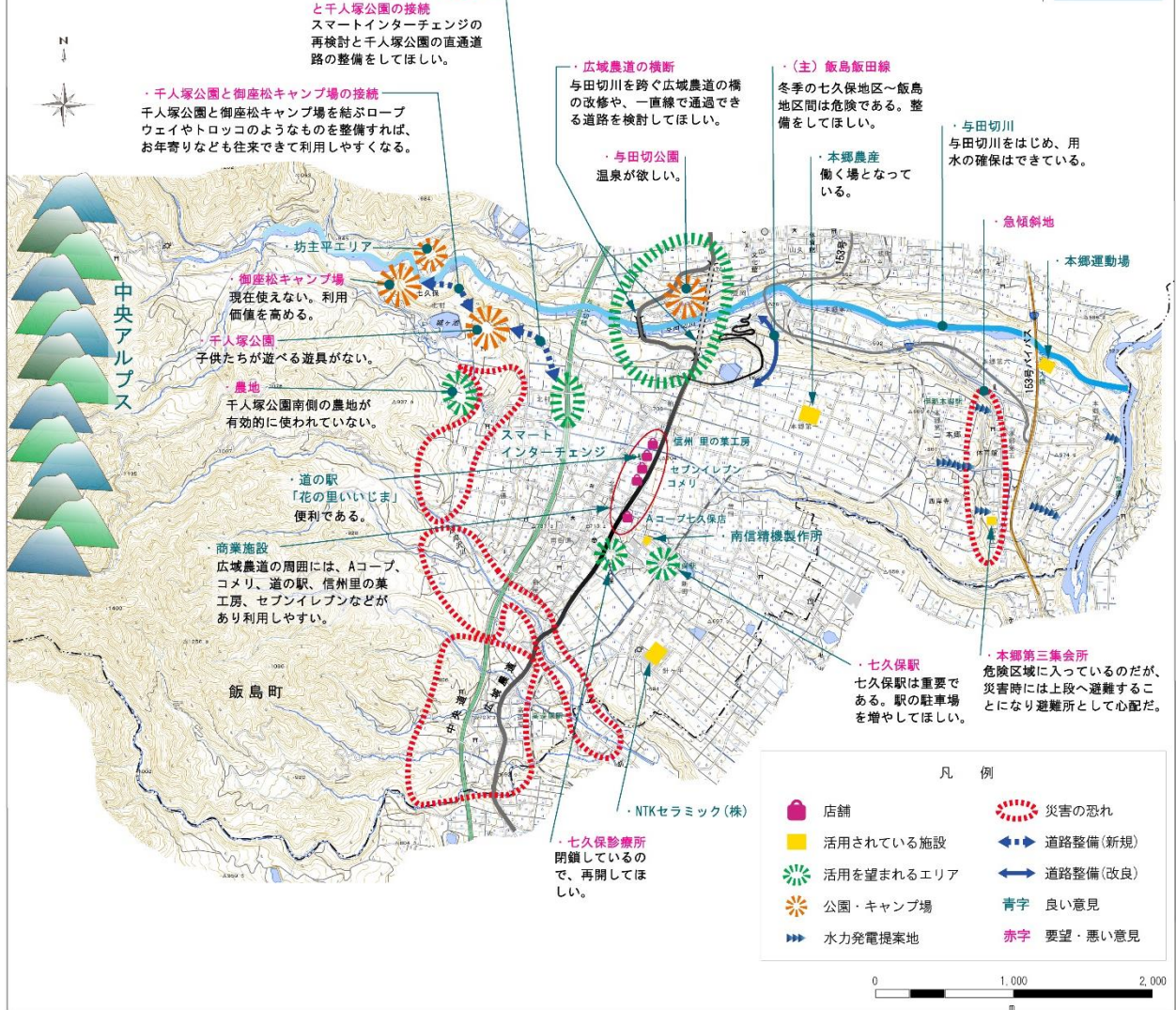
<七久保地区・本郷地区>

テーマ1 私たちの地区ってどんなところだろう

テーマ2 地区の良いところや悪いところを探してみよう

七久保地区 本郷地区
○ 良いところ △ 悪いところ

土地利用	道路歩道	公共交通	公園・広場	自然環境・景観	産業・働く場	買物・生活	地域コミュニティ
<p>△農地が多く残っている。草刈りなどの管理が必要な面積が大きい。</p> <p>△農地規制により、住宅街の休耕田の活用ができない。</p> <p>△田んぼとして農地整備が行われているが、住宅街の休耕田は整備が行われず小規模なままとなっている。</p> <p>△荒廃した畑が多い。</p> <p>○農業(特に米)が盛んである。</p> <p>△本郷第三と本郷第四と本郷第六は旧来の道路が入り組んでいる関係で、農地整備が進んでいない。</p>	<p>○舗装の目のように道路が整備されており走行しやすい。</p> <p>△道路の幅が狭く危険。</p> <p>宅地が分散しているため道路延長が多い。</p> <p>△歩道の設置がない道路も多い。</p> <p>△街灯がないため、夜道が危険である。</p> <p>△スマートインターチェンジを設置してほしい。</p>	<p>△タクシーは飯島地区から呼ぶ必要があるため不便である。</p> <p>△情報発信が不足しており、いちゃばんバスの利用がわからない。</p> <p>△地区への移動は自動車以外では厳しい。</p> <p>車社会であるため、運転できない人や高齢者を除くほとんどの人が自家用車で用が足りている。</p> <p>本郷地区からウエルシア周辺までの無人電気バスの整備をしてほしい。</p> <p>七久保駅は重要。駐車場を増やしてほしい。</p>	<p>○千人塚公園・与田切公園・坊主平など、地域全体で自然が楽しめる。</p> <p>△千人塚公園以外に特徴的な公園がない。</p> <p>△子供が公民館で遊ぶこともあるが、支援員がいないなど、うまく利用されていない。</p> <p>△公園や広場がない。</p>	<p>○風景が良い。</p> <p>△自然環境は良いが、その利用方法が不十分である。</p> <p>産や急傾斜地を利用した水力発電導入の検討を行う。</p> <p>自然環境の保全されている面がある一方、壊れていたり無関心な面もある。</p>	<p>○NTKセラミック南信精機、JA、里の菓工房、コメリ、道の駅などの企業が多くある。</p> <p>△優秀な人材は都会へ行ってしまおう。</p> <p>△女性の働ける職種が少ない。</p> <p>△働く場がなく、人材の多くは駒ヶ根市や松川町に流れてしまっている。</p> <p>水力発電の導入をすることによって、産業にもなる。</p>	<p>△空き家が多い。今後、さらに増えるのではないかと。</p> <p>△十久保診療所を再開してほしい。</p> <p>△日用品の買い場や飲食ができる場所が少ない。</p>	<p>○七久保地区は、飯島市内では最も人口減少が少ない地区であり、移住者も多い。</p> <p>○地域コミュニティは健全である。</p> <p>防災・防犯</p> <p>△北村地区、上通り地区、高遠原地区は土砂崩れの危険が高い。</p> <p>△災害が多い。</p> <p>△国道153号バイパス西側などに急傾斜地が多く、土砂災害の危険が多い。</p> <p>△地すべり地帯が多い。</p> <p>△防犯灯はあるが小さく暗いところが多い。</p>



＜飯島町全体＞

町全体で考える

テーマ3 暮らしやすい飯島町になるため必要なもの・ことは何だろう

コンパクトシティの考え

＜飯島地区＞
 ・飯島駅周辺は住宅密集地であり「役場を中心とするエリア(学校や保育園等が位置しており、空地もある)」
 ・または「鳥居原～飯島駅にかけてのエリア(比較的土が開けており、保育園も位置している)」
 ・コンパクトシティを目指すならば、飯島駅前に商店街が必要。
 ・飯島小学校や中学校の周辺に介護施設などを集約させる。
 ・その際には、飯島駅とのつながり(アクセス)も考える必要あり。

＜田切地区＞
 ・田切駅周辺は現状難しいため、「道の駅田切の里周辺～公民館にかけてのエリア」がよい。
 ・田切駅を中心とした人の流れを作っていくべき。

＜本郷地区＞
 ・竜東線の道路計画を大いに活用した「消防署エリア」がよい。
 ・本郷は要検討。

＜七久保地区＞
 ・七久保駅前が工場などが立地しているため難しい。
 ・小学校や保育園、道の駅花の里いじまエリアがよい。

＜全体＞
 ・飯島、七久保、田切にコンパクトシティをつくり、それぞれつなげる。
 ・町内5つの駅を活かした区画整理を行い、すっきりとさせる。

人口の規模

・飯島町は現状のままでコンパクトシティであり、適当な人口密度である。
 ・飯島町は現状の人口規模的に暮らしやすい。そのバランスを守っていければよいと思う。
 ・若い人が増えることが必要である。

農業・農地の保全

・飯島町は田のまちである。農業をやりたい人や若い人の定住を積極的に促し、食糧自給率を110%にしたい。
 ・現状農地を保全する。
 ・ドローンを利用した農業散布などスマート農業を行っていきたい。そのために、ドローンの空域権利を得て欲しい。

交流促進

＜柏木運動場＞
 ・グラウンドは人工芝が整備されている。4地区合同の町民運動会の開催や合宿の誘致を検討する。

＜田切駅のアニメの聖地＞
 ・田切駅に「究極超人あ〜る」の記念碑があり、ファンが多く訪れている。
 ・それを活用したイベントを開催する。

＜与田切公園の活用＞
 ・ステージを活用した交流。

＜情報発信＞
 ・飯島町のいろいろなシステムや情報をわかりやすく伝える手段の創出。

空き家

・若者が気軽に集えるような空間づくり
 ・飯島駅周辺の空地や空き家・貸店舗、空き施設を活用したテナントの募集を行う。

道路の整備

＜全体＞
 ・将来は飯田線が無くなるのでは。だから道路整備が最も必要ではないか(車の自動運転も含めて)。

＜広域農道＞
 ・現在迂回している与田切川を跨ぐ区間に直線の道路を建設してほしい。

＜東西間交通＞
 ・広域農道と国道153号バイパスをつなぐ広い道路が欲しい。(与田切川より北の地区)
 ・広域農道と国道153号バイパスをつなぐ広い道路が早急に欲しい。(与田切川より南の地区)

＜七久保地区＞
 ・スマートインターチェンジを整備して欲しい。

公園等の整備

＜全体＞
 ・子供が遊べる公園が少ないため欲しい。

＜役場・文化館周辺＞
 ・「ふれあい公園」や「ポケットパーク」が欲しい。

＜田切道の駅＞
 ・桜があり人も多く来ているため、藤巻川公園を作る。
 ・道の駅から田切駅を結ぶ(人々の導線となる)公園の整備。

＜パチンコ屋の跡地＞
 ・公園(セントラルパーク)が欲しい。

＜田切地区＞
 ・田切には公園がない。
 ・バイパスにあるアルプス大橋の高架橋下を有効活用して、スケートボードや3on3(バスケット)などができる公園を作る。

＜与田切川上流＞
 ・自然公園を設置し、ウォーキングコースを整備して欲しい。

＜柏木運動場＞
 ・ナイター使用ができるような整備。

新たに欲しい商業施設など

【南信地域】
 ・大型ショッピング施設
 ・乗客が見込める
 ・子供の遊べる場ができる
 ・既存の商店への配慮が必要

【飯島町】
 ・食料品の個人商店
 ・作業服を扱う店
 ・ホームセンター
 ・レンタカー屋
 ・回転寿司
 ・ファミレス
 ・町が賑やかになるといい
 ・ビジネスホテル
 ・ホテル
 ・温泉施設・温泉宿

【広域農道沿い】
 ・新たに数店舗
 ・病院・診療所
 ・ファストフード

【国道バイパス沿い】
 ・商店街
 ・食品スーパー
 ・ファストフード

【welcia薬局周辺】
 ・ファストフード
 ・無印良品
 ・マクドナルド
 ・スタバ
 ・回転寿司
 ・ファミレス
 ・商業施設

【飯島駅】
 ・商店街
 ・銀行
 ・診療所

【田切駅】
 ・飲食店

凡例

- 道路整備(新規)
- 道路整備(改良)
- コンパクトシティ
- 空き店舗対策
- 賑わいづくり
- 公園広場の整備
- 特徴的な施設等
- 店舗

0 1,000 2,000
m

3 都市計画上の主要課題

(人口減少と少子高齢化)

日本の人口は過去 10 数年間にわたり減少が続いており、出生数も同様の傾向を示しています。

本町においても、総人口は平成 7 年の 10,989 人をピークに減少に転じ、令和 2 年には 9,004 人となりました。将来人口推計では、令和 27 年には令和 2 年の約 7 割程度まで減少すると見込まれ、特に年少人口・生産年齢人口の減少と老年人口の増加が顕著になると想定されています。

人口減少と高齢化の進行は、医療・福祉需要の増大や地域コミュニティ機能の低下、生活利便性の低下など、町の暮らしや都市構造全体に大きな影響を及ぼします。

今後は、人口規模に見合った施設配置や都市構造の見直しにより、経済的・社会的影響を最小限に抑え、安心して暮らし続けられる環境を維持していくことが重要な課題です。

(市街地形成)

J R 飯島駅や七久保駅、伊那本郷駅周辺は比較的新築件数も多く、人口密度も高くなっています。一方で、町全体では空き家や空き店舗の増加により、市街地の低密度化や機能低下が課題となっています。また、郊外への人口移動が進んでいます。

人口減少と高齢化を背景として、子育て世代から高齢者まで幅広い世代が安心して快適な生活を送ることができるよう、持続可能な都市経営を進める必要があります。そのため、医療や福祉、商業機能や住居がまとまって立地し、公共交通など多様な移動手段でこれらの生活利便施設にアクセスできる集約型の市街地形成を進めることが求められています。

(産業)

町の工業は食料、窯業等を基幹産業として発展し、製造品出荷額も増加傾向にあります。一方で、商業については町外へ買い物流出が続き、地元滞留率の低さは地域の活性化に影響を与えています。近年、新たな商業施設の立地により、町民の生活利便性は向上しつつあります。

伊南バイパスの全線開通により、広域交通の円滑化と地域の安全性が向上し、商工業や観光、雇用など産業のさらなる発展も期待されています。さらに、平成 30 年に開通した駒ヶ岳スマートインターチェンジは町へのアクセスを容易にし、新たな企業の進出が期待されています。

一方で、沿道における無秩序な開発の抑制や、南北幹線と東西道路の円滑な連携が求められています。

(交通)

本町は中央自動車道、J R 飯田線、伊南バイパスを含む国道 153 号、伊那中部広域農道が南北方向に整備されています。今後は、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道、伊駒アルプスロードの整備により、県外とのアクセス性の飛躍的な向上が期待されています。

生活に身近な道路については、維持管理と安全性向上を基本に、利便性の高い道路環境の整備が求められています。特に市街地では、自動車交通の多い道路や公共施設の周辺で歩道が未設置の箇所があるため、交通安全の確保が一層必要です。

鉄道やバスなど公共交通の利用状況は低調ですが、将来を見据えるとその必要性に対する住民意識は高まっており、脱炭素の観点からも、自動車依存からの脱却と公共交通の充実が重要な課題となっています。

(その他都市施設)

都市公園は、住民の憩いの場やコミュニティの交流を促進する重要な場所です。町外の人も利用する大きな公園はあるものの、日常的に利用する小規模な公園については、市街地や居住地に近い場所への適正な配置が求められています。

公共下水道計画は進展しているものの、下水道のつなぎ込みや合併浄化槽の設置は十分とは言えず、さらなる普及促進が必要です。また、上水道の更新年数が40年を超えるものが令和11年には2割を超えることから、災害時の断水リスクや平常時の漏水対策など、強靱で安心できるライフラインの整備が求められています。一方で、長寿命化などによる上下水道施設の維持管理コストの削減も課題です。

(景観育成)

町の多くの場所から二つのアルプスを望むことができ、田園風景と調和した良好な景観は本町の大きな魅力です。これまで景観計画や屋外広告物規制により景観づくりを進めてきましたが、今後は住民や事業者の主体的な参画による景観づくりを一層推進し、美しい景観を守り育てていくことが求められています。

(都市防災)

近年、短時間で大量の雨が降るゲリラ豪雨や線状降水帯の発生による水害や土砂災害、さらには東日本大震災、長野県神城断層地震、熊本地震、能登半島地震などの地震災害が頻発し、甚大な被害をもたらしています。

町民の間では災害への不安と防災意識が高まっており、さらに町は南海トラフ地震や東海地震による防災対策推進地域に指定されていることから、被害の予防や発災後の迅速かつ効果的な対応が求められています。